



母に会いたい

洋子は、昭和二二年、横須賀に混血児として生まれた。父を知らないまま、母と共に困窮した生活を送っていた。昭和二七年、5歳になった洋子は児童福祉施設に保護されることとなる。そして、米兵家族に養子として引き取られ、渡米する。

渡米の直前、最後に実母と会う。「おいていかないで」と泣く洋子に母は「心配しないで、必ず迎えにくるから」と約束した。約束は守られず、洋子はその後六十六年の間、母と連絡を取ることも、日本に帰ることもなかった。

66年ぶりの日本

生き別れた母を探す洋子の旅

ドキュメンタリー映画

Yokosuka 1953

全国順次公開中

木川洋子 (Barbara Mountcastle)

Shana Mountcastle Jason Mountcastle

天都カネ子 新倉すみ子 辻井善弥 田村泰治 工藤則光 久保公恵

秋谷の住民の人々

木川剛志

津田寛治 (ナレーション)

プロデューサー | 上原三由樹 / 木川剛志 撮影 | 木川剛志 / 上原三由樹 / 関戸麻友 編集 | 筏万州彦 / 木川剛志

監督 | 木川剛志

主題歌 | 「おやすみ」 キャラバンキョウコ



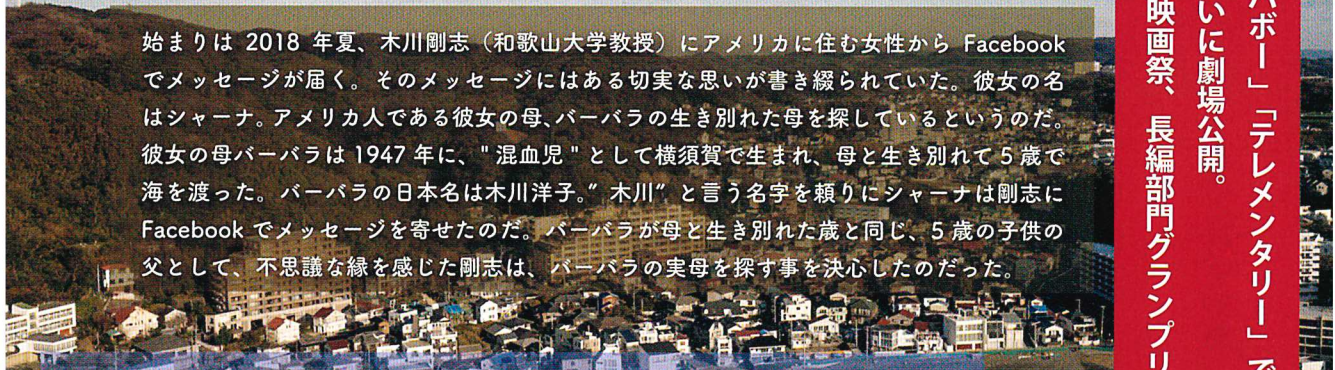


1945年、終戦を迎えた日本。
 アメリカ軍は40万人にも及ぶ進駐軍兵士を日本に上陸させ、
 その後、7年間にわたり、GHQによる占領統治が続いた。
 基地があった横須賀の街には200人を超える無籍の混血児がいたという。



「奇跡体験！アンビリバボー」「テレメンタリー」で
 話題となった物語がついに劇場公開。
 東京ドキュメンタリー映画祭、長編部門グランプリ作品。

「日本に住む親族を探しています。私の母は1947年に日本で生まれ、
 1953年に米兵に養子縁組され、アメリカにやってきました。
 彼女の昔の名字は“木川”、名前は“洋子”です。」



始まりは2018年夏、木川剛志（和歌山大学教授）にアメリカに住む女性からFacebookでメッセージが届く。そのメッセージにはある切実な思いが書き綴られていた。彼女の名はシャーナ。アメリカ人である彼女の母、バーバラの生き別れた母を探しているというのだ。彼女の母バーバラは1947年に、“混血児”として横須賀で生まれ、母と生き別れて5歳で海を渡った。バーバラの日本名は木川洋子。“木川”と言う名字を頼りにシャーナは剛志にFacebookでメッセージを寄せたのだ。バーバラが母と生き別れた歳と同じ、5歳の子供の父として、不思議な縁を感じた剛志は、バーバラの実母を探す事を決心したのだった。

この映画の物語は、地元の方が語り継ぎたくない、忘れ去りたいと思っている、戦後混乱期の横須賀の悲しい歴史です。私は洋子さんと偶然出会い、その調査の中で戦後の女性と子供たちの悲しみを知り、何度も涙を流すことができました。美しくない歴史がそこにありました。しかし、洋子さんと一緒に彼女の母を探し、その旅は人間の美しさを私に教えてくれました。この映画はその旅の記録です。（監督 木川剛志）



ドキュメンタリー映画
Yokosuka 1953
 無名混血児に注ぐ愛情

2021年製作 107分 DCP



<https://yokosuka1953.com>

上映決定

ジストシネマ和歌山

2023年2月3日(金)より

2月4日(土) 上映後舞台挨拶

舞台挨拶 津田寛治 (ナレーション) 木川剛志 (監督)

津田寛治さん執筆本の即売会もあります
 2月4日のYokosuka1953は10時頃からの上映を予定しています。

詳しくは劇場もしくは公式ホームページで